

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

第145号 会報 1994年10月31日

目 次

1. 第96回総会ならびに講演会速報	1	5. 人事公募	3
2. 第17期学会役員選挙日程 および立候補案内	2	6. 国際交流事業補助金受領者の報告	4
3. お知らせ	2	7. SGEPSS Calender	6
4. 研究助成金案内	6	8. 日本学術会議だより	7

1. 第96回総会・講演会速報

第96回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会は1994年10月18日(火)より21日(金)の四日間、名古屋大学で開催された。会期は最終日を除いて天候にも恵まれ、気持ちの良い気候の中で250以上の講演がおこなわれ、今回の学会では、(1)セッションの日割りを講演申込案内の時点で公表した、(2)試みとして会期を4日間とした、(3)講演時間を12分とした、(4)ポスターハイライトやレビューのための時間を設けた、など、プログラム編成上新しい試みが数多くなされていた。4日間の会期で、公開フォーラム「極冠域の物理」の時間もたっぷりとられた。

総会は、名古屋大学・小島会員の開会の辞によって始まり、議長として指名を受けた乙藤運営委員に

よって下記のように議事の進行がはかられた。議事は会費値上げ(一般12,000円、学生6,000円、海外6,000円)、大林奨励賞設立、福島直会員の名誉会員推薦、等盛りだくさんで、会場の都合で議場を途中で移しておよそ3時間に渡って熱心な議論が行われ、いずれの案件も賛成多数で承認された。次期講演会(合同学会)については準備状況が大志万運営委員より報告された。次々期開催地に関しては京都大学工学部でお世話頂くよう寺沢運営委員より提案があり、快諾された。その他の項目では会長選挙も立候補制を検討することを次期運営委員会に付託するよう提案され、可決された。

議事の結果等の詳しい報告は次号に掲載予定です。

第96回総会式次第

- | | | | |
|-------------------|-----------|----------------|-----------|
| 1. 開会の辞 | (小島会員) | 新学会賞設立について | |
| 2. 総会議長指名 | | 長谷川永田賞金メダルについて | |
| 3. 大会委員長挨拶 | (国分大会委員長) | 内規の改定について | |
| 6. 会長挨拶 | (大家会長) | 名誉会員推薦について | |
| 7. 運営委員会報告 | (森岡運営委員) | その他 | |
| 8. JGG編集委員会報告 | (福西編集委員) | 次期開催地 | (大志万運営委員) |
| 7. JGG誌将来計画検討中間報告 | (大家会長) | 次々期開催地 | (松本会員) |
| 9. 議事 | | 10. 謝辞 | (恩藤評議員) |
| 会費値上げについて | | 11. 閉会の辞 | |

2. 第17期学会役員選挙日程および立候補案内。

本学会役員選挙内規に基づき、下記日程により第17期役員（会長、評議員、運営委員）の選挙を実施いたします。本学会のために活躍して頂ける方々の立候補、あるいは推薦により立候補を促して下さるようお願いいたします。

内規第2条4により、正会員は他の正会員2名の推薦によって、評議員あるいは運営委員に立候補することができます。立候補者は、氏名、年齢、勤務先、研究分野（20字以内）と推薦者を記入した書面を11月15日まで（必着）に大家会長宛にお送りください。推薦者の印鑑等は必要ありません。11月下旬発行予定の選挙広報に、立候補者一覧と各候補者による上記情報を添えて掲載いたします。正会員は複数の候補者の推薦人になることが出来ます。なお、本学会役員選挙の立候補はあくまで投票の際の参考

資料です。被選挙権は正会員全員にあります。

また、内規第2条3により運営委員を辞退される方がおられましたら、大家会長までお知らせください。

記

- ・評議員、運営委員立候補受付メ切 : 11月15日（火）
（宛先は会長）
- ・運営委員辞退申し出メ切 : 11月15日（火）
（宛先は会長）
- ・選挙広報、投票用紙発送 : 11月下旬
- ・投票メ切 : 12月25日（月）
（宛先は学会事務センター）

3. お知らせ

●お知らせMUレーダー一般公開のご案内

京都大学超高層電波研究センターでは、滋賀県甲賀郡信楽町に設置されているMUレーダーの一般公開を、1994年11月12日（土）午前10時から午後4時に行いますのでお知らせします。

MUレーダーは、直径約100mの円形アレイ・アンテナを備えた周波数46.5MHzの大気観測用レーダーです。1984年11月の完成以来、最先端の電子技術を駆使して高度500kmまでの地球大気の動きを観測しています。一般公開では、MUレーダー装置の見学を中心に、地球環境問題に貢献するレーダー技術の展示を行います。

MUレーダーへの交通は、信楽高原鉄道・信楽駅から自動車約15分（国道422号線を上野市方面へむかって進み、滋賀-三重県境手前1kmを左折）。当日は信楽駅から送迎用のマイクロバスを運行します。MUレーダー内には食堂・売店などはありません。またスリッパなど持参のこと。問い合わせは、電話0748-82-3211京都大学超高層電波研究センター信楽MU観測所・山本まで。

（山本衛会員より）

●工業技術院見学会のお知らせ

工業技術院女性研究者の会より下記の工業技術院見学会のご案内を載しました。

記

1994年11月11日（金）費用200円

10時 受付（工業技術院電子技術総合研究所一階ロビー）

10時20分-11時 電子技術総合研究所 8階会議室にて全体の説明

11時-12時30分 関心ある研究所の見学（以下の8研究所のうち分野によりコースを設定します。）

電子技術総合研究所、計量研究所、生命工学工業研究所、物質工学工業技術研究所、地質調査所、機械技術研究所、資源環境技術研究所、産業技術融合領域研究所

12時30分-13時30分 昼休み

昼食は各自工技院内食堂でご自由におとりください（お弁当持ち込み可）

13時30分-15時30分 在職研究者と懇談会（電子技術総合研究所 8階会議室）

申込先

〒305 茨城県つくば市梅園1-1-4

電子技術総合研究所計測基礎研究室 葛西直子（前日 [必着] までに、氏名、大学、学科、学年、見学したい研究室名 [当日変更可能] または興味ある研究分野を書いてハガキで申し込んでください。）

問い合わせ

電子技術総合研究所 葛西直子 0298-58-5565

計量研究所 稲松照子 0298-54-4069

物質工学工業技術研究所 桜木雅子 0298-54-6347

（木多紀子会員より）

●国際会議 Solar Wind 8 のお知らせ

会議名： Solar Wind 8

期間： 1995年6月25-30日

場所： Dana Point Report, California, USA
(Los Angelesから南へ車で約1時間)

世話人： Daniel Winterhalter, Dave McComas, Neil Murphy, John Phillips

内容：

- (1) Corona and Solar & Stellar Wind Acceleration
- (2) Solar Wind Composition and Internal State
- (3) Solar Wind Structure, Dynamics, and Evolution
- (4) Outer Heliosphere, Boundaries, and Interactions with the Local Interstellar Medium

Abstract締め切： 1995年2月1日

Announcement配布希望の人は、emichel@lanl.govへe-mailすること

(徳丸宗利会員より)

4. 研究助成金案内

●山田科学振興財団 (1995年度)

〆切1995年3月31日(金)

自然科学の基礎的研究に対して補助、実用指向研究は対象外。援助額は1件あたり300万から700万円、総額4,500万円、援助総件数は10件程度。学会からの推薦及び財団関係者からの個人推薦の中から選考。用途は給与以外は自由。使用機関は2年間。推薦枠2件以内。

連絡先

財団法人山田科学振興財団

〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号

06-757-3311 (代表)

推薦は総務までご相談ください。

5. 人事公募

●神戸大学発達科学部

1. 募集するポスト

自然環境論講座 助教授または講師 1名

2. 専門分野

広い意味の宇宙環境物理学。例えば、宇宙論、宇宙線、あるいは宇宙環境科学の関連分野における理論あるいは実験。

3. 授業科目

「宇宙環境物理学I」、「宇宙環境物理学II」、「自然環境基礎実験I」、全額共通事業科目「物理学」、物理学実験

4. 採用予定日 平成7年4月以降で、決定次第できるだけ早い時期(講義開始は平成7年10月)

5. 応募資格

博士の学位を取得していることが望ましい。年齢、性別は特に問わない。(定年63才)

6. 提出書類

- (1)履歴書(健康に関する所見を含む)
- (2)業績リスト
- (3)主要論文(5編以内)の別刷
- (4)これまでの研究経歴(A4版2ページ以内)
- (5)着任後の研究構想および教育に関する抱負(A4版3ページ以内)
- (6)本人に関して意見を求める方2名の氏名と

その連絡先

(7)可能ならば推薦書

7. 提出期限 平成6年12月26日(月) 必着

8. 送付先

〒657 神戸市灘区鶴甲3丁目11番

神戸大学発達科学部長宛。

封筒に「自然環境論講座教官応募書類在中」と朱書きし書留郵便にて送付のこと。

9. その他

この講座は、平成4年10月に発達科学部の発足とともにできた新しい講座です。従来の物理学、化学、生物学、地学を足場にする18人の教官からなる大講座で、総合学的な見地から環境科学の基礎的な部分にアプローチすることを目指しています。今回は、とくに宇宙環境物理学という新しい分野を開拓する意欲にあふれ熱意のある方を募集します。また、講座内の他分野の研究者との交流にも意欲ある方を望みます。

10. 問い合わせ先

神戸大学発達科学部 人間環境科学科自然環境論講座 森井俊行

e-mail morii@kobe-u.ac.jp

Tel 078-803-0917, Fax 078-803-0261

6. 国際学術交流事業補助金受領者の報告

●石井守会員（京都大学理学部・Max-Plank-Institut für Aeronomie・現在郵政省通信総合研究所）より

海外国際集会派遣による補助をいただき、1993年秋期AGU総会に出席して参りましたので、ここにご報告させていただきます。

私は学位審査終了後、昨年9月よりドイツ・LindauのMax-Plank-Institut für Aeronomieに滞在しております。海外を起点とした国際集会出席に国際学術事業が適用され得るかどうか不明であり、またおそらく運営委員会でもかなり議論の対象になったことと思いますが、幸いご理解をいただきまして援助いただき感謝しております。

AGU直前、Lindauは非常に冷え込みまして、日中でも-5~-10℃で研究所前の池には厚い氷が張り、子供たちがスケート遊びをしているような状態でした。そんな土地からやってきたものにとって、常春のSan Franciscoは非常に温かく、自分の発表の際には半袖のカッターシャツを着て講演を行ったほどでした。もっともこれは、鋭い質問による冷や汗対策ということもありましたが・・・

今回の学会は私にとって、自分が普段referしているような論文の著者と直接会って議論できたという点で'90年のChapman conference（箱根）以来の強いインパクトを受けたものとなりました。特に今回は、一つのテーマに対して研究している人の多さ、層の厚さに驚きました。例えば私の研究テーマ、field-aligned current中の電場・磁場微小擾乱についても、それを波動と見る人、structureと見る人、そもそもそういう分け方はもう古いと見る人など多くの人の意見を聞くことができ、興味深く感じました。

今回、私にとってこの学会で最も強い印象を受けたセッションは、打ち上げ1年目を迎えたFrejaの解析結果でした。磁場・電場DC成分の時間分解能128 samples/sec. 画像の空間分解能がapogeeで5kmという驚異的な分解能を持つ機器によって得られた

データは、これまでの限界を大幅にクリアして沿磁力線電流の構造をかなりはっきりさせる結果を得ているように思いました。例えば、P. Louarn *et al.* や P. O. Dovner *et al.* による沿磁力線電流領域における磁場・電場微小擾乱中のKinetic Alfvén waveの解析や、G. Haerendelによる粒子・電場・磁場データとAuroral arc structureとの比較についての報告は、その高分解能の特色を行かした研究としてとても興味



深く感じました。また、T. J. HallinanのVideo cameraによる観測結果から推定したオーロラ粒子のダイナミクスの講演ではまるで煙が吹き出すように形を変えるオーロラ等、その時間変化の速さに驚きました。

今回の集会でもう一つ気がついたのは、ポスター講演が非常に多かったという点です。私の講演自身ポスターでしたし、聞くところによると講演の30%がポスターということでした。ポスターとオーラルの講演がバラレルに進められる構成上、発表者を捕まえるのに一苦労しましたが、多くのポスターにはAbstract及びFigure Captionsがつけられ、発表者がいなくても十分理解できるような工夫のなされているものが多く非常に参考になりました。

AGU MeetingではいくつかのSocial Activitiesがそれぞれの分野ごとに企画されていました。私は、Space Physics and Aeronomy Section Dinner (\$28.00)に参加したのですが、参加者200名余りの中に日本

人がまったくいなかったのには驚きました。立食形式ではなく席についての dinner だったのでまわりに知り合いがいなとかかなり uneasy でしたが、幸いとなりの席の Dartmouth College の学生の人と友達になり、楽しくすごすことができました。それにしても、料理も（お酒も！）値段に比べて十分納得できるものでしたし、来年からはぜひ皆さんいっしょに参加しましょう。

天候にはあまり恵まれず曇りや小雨のばら着く天気で最終日にはストームまで（もちろん天気の方の）やってくるというおまけまで付きました。

● 臼井英之会員（京都大学超高層電波研究センター）より

私自身の懸案事項であった博士論文を昨年夏からまとめ始め、公聴会、論文の製本と、なんとか無事にこなし、ようやく3月に学位授与の運びとなった。5月の終わりにはAGU（米国地球物理連合）の春の集会在開催されるということを知り、研究に一区切りつける意味でも久しぶりにAGUに参加し学位論文の研究成果を発表、議論したい、という衝動にかられ、この国際学術交流事業補助金に応募した結果、幸いにも選ばれた。

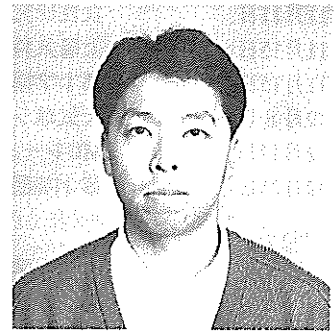
私の研究テーマは、シャトル・テザー衛星系と宇宙プラズマとの電磁学的相互作用の計算機実験であり、地球磁気圏での自然現象の解析と言うよりも、むしろ電離層でのスペースシャトルを用いた能動実験をモデルにしたプラズマ応答、波動励起等に関する大規模計算機シミュレーション解析である。そのため、発表するセッションも「Active Experiment in Ionosphere」で登録をすませていたが、たまたま、同じ週に宇宙科学研究所で国際テザーワークショップが開催されることを後で知り、それに参加・発表講演を行うためにAGUにスケジュールの変更をお願いした。結局、AGUへは後半から参加することになり、宇宙研で発表の次の日にAGUで発表、という非常にあわただしいスケジュールとなった。

出国の当日は、宇宙研での発表のあとすぐに成田に向かわなければならず、その道中の交通の不便さ、所要時間の長さにはききしながら満員の飛行機になんとか乗り込み、一路バルチモアに向かった。

AGUの春の集会は、毎年、アメリカの東海岸にあるバルチモアで開催される。今回、バルチモアを初めて訪れたが、古くからの港町だそうで、ダウンタウンは物騒らしいが海辺は高層ビルが立ち並び人通りも多く、昼は海や船を見ながらランチを取った。さながら神戸ハーバーランド（関西以外の人には知らない？）のように感じた。

Lindau でさんざん雪に降り込められてやっと日のあたる場所へ出られるかと思ってやってくるこの調子。ドイツへ帰ってみると今度は気温が以上に上昇し、ライン川の氾濫で Köln あたりでは洪水になっているという有り様で、どうも私の行くところ異常気象がついてくるような気がします。もっとも帰りの飛行機（San Francisco-Frankfurt）では、Greenland 上空でオーロラを見るという好運にも巡り会い、素晴らしい旅の締めくくりとなりました。本当にどうも有り難うございました。

今回のAGU集会は、政府の予算削減の影響か、発表件数、聴衆の数の点から見てもいわゆる「盛りさがあって」いたらしい。私の発表に関してであるが、発表スケ



ジュール変更のため、研究テーマとはあまり関係のないセッションしか選択の余地がなく、どれぐらいの人が私のポスターを見にきてくれるのか心配であった。しかし、それでも2時間ぐらいの間に6～7名が興味を示してくれ、特にこれといったコメントはもらえなかったが、私個人としては東海岸まではるばるやってきた甲斐があったと思っている。残念に思うのは、AGUの集会の前半を聞き逃したことであるが、それでも、後半のプラズマ波動観測・解析関係の発表を聞きかじることができ、これからの自分の研究にとっていい刺激になったと思う。やはり、たまには海外の空気を吸い、Activeな研究者の発表を聞き、議論を行うことが必要だなと実感した。

フライトがデトロイト経由ということもあり、AGU集会終了後、ミシガン大学に立ち寄り、SETS (Shuttle Electrodynamic Tether System) というシャトル・テザー衛星実験の一部を担当しているチームとの議論を行った。前回、1992年に最初のシャトル・テザー衛星実験が行われたが、テザーワイヤーの巻き取り部分の機械的不具合により、本来20kmのワイヤーをのばすところが250m程で止まってしまう、十分な実験結果が得られなかった。幸い、シャトルの搭載機器はすべて回収できており、1996年2

月に再実験を予定しているそうである。ミシガン大学のチームでも再実験にむけて機器の調整等、忙しくしておられたが、同時に、理論、シミュレーションの方面でも研究をはじめており、私の計算機シミュレーションによる研究に大変興味を示していた。今後、我々と共同研究を行っていききたいという意向であるが、我々としても是非前向きに考えてい

きたいと思う。

最後になったが、今回のAGU集会参加の機会を与えてくださった学会の関係者の方々には心より感謝の意を表したい。また、今後、益々多くの若手研究者が海外で各々の研究成果の発表・議論を行えるよう、この補助金枠が拡大していくことを切に願うばかりである。

SGEPSS Calender

1994年

- 11月7日～8日 Geomagnetic Polarity Reversals and Field Behavior From ODP Sediments. A Workshop at Florida International University, Miami, FL, USA.
- 11月8日～9日 磁気圏・電離圏シンポジウム 於 宇宙科学研究所
- 11月11日 女性研究者のための工業技術院見学会 於 工業技術院電子技術総合研究所他
- 11月15日～16日 太陽系科学シンポジウム 於 宇宙科学研究所
- 11月15日 第17期学会役員立候補メ切
- 12月8日～9日 大気球シンポジウム 於 宇宙科学研究所
- 12月12日 MUレーダー一般公開 於 京都大学超高層電波研究センター信楽MU観測所
- 12月25日 第17期学会役員投票締め切り

1995年

- 1月30日～2月1日 京都大学防災研究所 平成6年度研究発表講演会
於 京都大学宇治キャンパス (宇治市五ヶ庄)
- 2月1日 IUGG XXI General Assembly, abstract deadline.
- 2月7日～8日 Conductivity Anomaly研究会 於 鳥取市 国民年金保養センター
- 3月20日～24日 The Nineth International Symposium on Equatorial Aeronomy (ISEA)
at Bali, Indonesia.
- 3月27日～30日 地球惑星科学関連学会合同大会 於 日本大学文理学部
- 6月25日～30日 Solar Wind 8 at Dana Point Report, California, USA
- 7月2日～14日 International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG) XXI General Assembly
at Boulder, Colorado, USA.
- 9月20日～22日 International Workshop
"Magnetic, electric & EM methods in seismology & volcanology"
at Positano, Italy.

国内外の学会、研究会、委員会、締切等がございましたらSGEPSSカレンダーに掲載致したいと思しますので会報担当の渋谷までお知らせください。

地球電磁気・地球惑星圏学会

会長 大家 寛 総務 森岡 昭

〒980 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学理学部宇宙地球物理学教室 022-222-1800 ex.3347 Fax 262-6332

庶務 渋谷秀敏 (会報担当) ・浜野洋三

〒593 堺市学園町1-1 大阪府立大学総合科学部地学教室

0722-52-1161 ex 3735 Fax 55-2981 e-mail shibuya@cias.osakafu-u.ac.jp

運営委員会 〒113東京都文京区本駒込5丁目16番9号学会センターC21(財)日本学会事務センター気付

03-5814-5810 会員業務 (入退会, 住所変更等, 会費, 会誌)

03-5814-5801 学会業務 (庶務, 窓口, 渉外)

03-5814-5820 ファクシミリ

入会申し込み, 国際学術交流事業への応募は運営委員会宛, 田中館賞推薦は会長宛, 研究助成金案内は総務宛, 会報への投稿は担当庶務宛ご連絡ください。会報へのご提案, ご意見, 情報提供, 寄稿をお待ちしています。

第16期最初の総会開催される

平成6年8月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議の第16期が平成6年7月22日(金)からスタートし、7月25日から7月27日までの3日間、第119回総会が開催されました。今回の日本学術会議だよりでは、総会の概要等についてお知らせします。

日本学術会議第119回総会報告

平成6年7月22日から、第16期が開始されましたが、この第16期会員による最初の総会である、日本学術会議第119回総会が、7月25日から27日までの3日間にわたって開催されました。

初日(25日)の午前は、辞令交付式が、総理大臣官邸ホールで行われ、210名の会員のうち海外出張中等の22名を除く188名の会員が出席しました。式は、村山内閣総理大臣、五十嵐内閣官房長官、石原官房副長官、文田総理府次長等の出席を得て行われ、第1部から第7部までの全会員の名前が読み上げられた後、会員を代表して最年長である中田易直第1部会員が、村山内閣総理大臣から辞令を受け取りました。この後、村山内閣総理大臣が「会員の皆様には独創性豊かな学術研究の発展等のため、総合的観点に立って学術研究に係わる諸問題の解決に御尽力いただきたい」とあいさつし、これに答えて、中田易直第1部会員が「微力ながら全力を尽くし、重要な職責を全うし、国民の期待に応えたい」とあいさつしました。午後は、日本学術会議講堂において、総会が開催され、会長、副会長(2名)の互選が行われました。その結果、会長には、伊藤正男第7部会員が、人文科学部門の副会長には、利谷信義第2部会員が、自然科学部門の副会長には、西島安則第4部会員が、それぞれ選出され、伊藤会長及び利谷副会長(西島副会長は海外出張中)からそれぞれ就任のあいさつを行いました。続いて、各部会が開かれ、各部の部長、副部長及び幹事の選出等が行われました。(第16期の役員については、別掲を参照)

2日目(26日)は、午前10時から総会が開催され、近藤前会長が海外出張中のため代理として川田前副会長が第15期の総括的な活動報告を行い、続いて、会員推薦管理会報告として、久保亮五委員長の代理として高岡事務総長が、第16期会員の推薦を決定するまでの経過報告を行いました。引き続き、事務総長から第16期会員対して実施した「第16期の日本学術会議が取り組むべき課題について」のアンケートの結果について説明がありました。総会終了後は、各運営審議会附置委員会、各部会、各常置委員会等が開催されました。また、夕方には、総理大臣官邸ホールにおいて、村山内閣総理大臣主催の日本学術会議第16期会員との懇談会が初めて開催されました。懇談会は、村山内閣総理大臣のあいさつで開会し、五十嵐内閣官房長官の発声による乾杯、伊藤会長の答礼のあいさつの後、懇談に入りました。来賓として、与謝野文部大臣、田中科学技术庁長官、吉田農林水産政務次官、藤田日本学士院院長ほか大勢の方が出席され、あふれんばかりの人々で歓談が続き盛会となりました。

3日目(27日)は、午前10時から総会が開会され、会長から「第16期活動計画の作成について」の申合せ案について提案があり、原案どおり可決されました。続いて、第16期の活動計画についての自由討議が行われ、各部長から各部会での意見が披露されるなど活発な発言がありました。総会終了後は、地区会議合同会議、各運営審議会附置委員会、各常置委員会等が行われました。その後、運営審議会が開催され、第16期の活動計画の案案作成のために、運営審議会構成員の中から起草委員を選出し、審議に入りました。

第16期日本学術会議役員

会長	伊藤 正男 (第7部・生理科学)
	理化学研究所国際 フロンティア研究システム長
副会長	利谷 信義 (第2部・基礎法学)
	お茶の水女子大学 (生活科学) 教授
副会長	西島 安則 (第4部・化学)
	日本ユネスコ国内委員会会長

〔各部役員〕

第1部	部長	中田 易直 (歴史学)
	副部長	戸川 芳郎 (哲学)
	幹事	堀尾 輝久 (教育学)
	幹事	森岡 清美 (社会学)
第2部	部長	中山 和久 (社会法学)
	副部長	山口 定 (政治学)
	幹事	兼子 仁 (公法学)
第3部	部長	山中永之佑 (基礎法学)
	副部長	山中永之佑 (経済政策)
	幹事	岡本 康雄 (経営学)
第4部	部長	伊達 宗行 (物理科学)
	副部長	竹内 郁夫 (生物科学)
	幹事	井口 洋夫 (化学)
第5部	部長	新藤 静夫 (地質科学)
	副部長	内田 盛也 (応用化学)
	幹事	大橋 秀雄 (機械工学)
第6部	部長	増子 昇 (金属工学)
	副部長	松尾 稔 (土木工学)
	幹事	志村 博康 (農業工学)
第7部	部長	北村貞太郎 (農業工学)
	副部長	志村 博康 (家政学)
	幹事	平田 熙 (農芸化学)
第8部	部長	渥美 和彦 (内科系科学)
	副部長	金岡 祐一 (薬科学)
	幹事	入江 實 (内科系科学)
	幹事	細田 泰弘 (病理科学)

〔常置委員会〕

第1常置	委員長	利谷 信義 (第2部)
第2常置	委員長	中塚 明 (第1部)
第3常置	委員長	村上 英治 (第1部)
第4常置	委員長	増本 健 (第5部)
第5常置	委員長	山中永之佑 (第2部)
第6常置	委員長	鹿取 廣人 (第1部)
第7常置	委員長	井口 洋夫 (第4部)

(注) カッコ内は、所属部・専門

第16期日本学術会議会員の概要について

この度任命された210人の第16期日本学術会議会員の概要を以下に紹介します。(カッコ内は第15期)

1 性別	男性209人	女性1人
2 年齢別	45～49歳 1人	50～54歳 3人
	55～59歳 26人	60～64歳 93人
	65～69歳 72人	70～74歳 12人
	75～79歳 1人	
	最年長	75歳(74歳)
	最年少	47歳(54歳)
	平均年齢	63.6歳(63.3歳)

3 勤務機関及び職名別

(1) 大学関係	国立大学	59人
	公立大学	2人
	私立大学	111人
	公私立短期大学	2人
	計	174人
(2) 国立私立試験研究機関・病院等		9人
(3) その他	法人・団体関係	5人
	民間会社	6人
	無職	14人
	その他	2人
	計	27人

4 その他の分類

(1) 前・元・新別	前会員	82人
	元会員	3人
	新会員	125人
(2) 地域別 (居住地)		
	北海道	3人(5人)
	東北	9人(8人)
	関東	136人(133人)
	中部	14人(19人)
	近畿	41人(34人)
	中国・四国	3人(5人)
	九州・沖縄	4人(6人)

(注) 詳細については、日本学術会議月報7月号を参照

「日本学術会議だより」について御意見、お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291